

信州の伝統的工芸品

# 飯山仏壇

経済産業大臣指定伝統的工芸品 昭和50年9月4日指定



伝統マーク  
承認番号27-309



## 飯山仏壇の概要

製造される仏壇は、17世紀後半から始まったといわれています。

木地、<sup>くいでん</sup>宮殿、彫刻、塗装、金具、蒔絵、金箔押し、組立の8工程に大分され、木地にはカツラ、ホオ、スギなどが使用されています。

本組み木地(分解組立が可能な木地製造法)、弓なげし、<sup>ひじきくみもの</sup>宮殿の肘木組物(分解組立が可能な宮殿)、<sup>ごふんちまきえ</sup>胡粉盛り蒔絵などの伝統的技法により、特徴ある塗り仏壇を製造しています。

## 【主要産地】 飯山市



## 歴史・沿革

飯山市は、天正7年(1579年)上杉謙信が築城し、江戸時代には本多氏の居城となった飯山城の城下町。雪深い北信濃の起点であり、物資の集散地として栄えました。

また、文豪島崎藤村がたびたび訪れ「さすが信州第一の仏教の地」とその代表作の冒頭の一節に著し、「雪国の小京都」と言わしめた寺の町としても知られています。「破戒」のモデルになったといわれる真宗寺、禅寺の古刹として有名な正受庵など、市内には由緒ある寺社が数多く点在します。

地場産業である「飯山仏壇」

は元禄2年(1689年)、甲州から来た寺瀬重高が素地仏壇を手がけたのが始まり。もっとも、室町時代に浄土真宗が北陸から伝えられ、飯山を中心とする北信濃に広く根をおろしていく中、仏壇づくりが行われていったのではないかと考えられています。

飯山仏壇が今日まで発達してきた要因は、(1)仏教信仰のあつい土地柄、(2)城下町政策および寺社政策、(3)木材などの仏壇原材料が地元にあった、(4)漆塗りに最適な清澄な空気と適度な湿気を持つ気象条件に恵まれた、などがあげられます。

飯山仏壇事業協同組合に加盟する仏壇店は現在、愛宕寺町を中心に10社あり、それぞれに

個性あふれる飯山仏壇を製造・販売しています。



## 産地の取組

### 技術の伝承を積極的に推進

伝統技術と技能を次世代へつなげるため、技術の伝承を積極的に進めています。

当組合の青年部会として、試作仏壇の製作を実際に行い、技術の伝承、向上を図っています。



### 技術を活かした製品開発

仏壇の製造技術を活かした製品も、開発しています。

漆塗りの技術を活用し、ペットの供養のための「心の箱」として、販売をしています。



## アクセス



●豊田飯山ICから車で15分 ●飯山駅から徒歩15分

## 飯山仏壇事業協同組合

〒389-2253 長野県飯山市大字飯山1436-1  
飯山市伝統産業会館内

TEL0269-62-4026 FAX0269-62-4019  
e-mail:butsudan@avis.ne.jp  
URL <http://www.avis.ne.jp/~butsudan/>

## 「肘木組物」で造る宮殿



飯山仏壇独特の技法により、肘木と組物で造られているため、宮殿は分解ができます。

## 塗装

塗装は、下塗り、研ぎ、中塗り、研ぎを行った上に、上塗り、または漆の色の塗り分けがされます。漆塗りを3回以上繰り返して仕上がりです。

## 胡粉盛り蒔絵

胡粉盛りは蒔絵に立体感をもたせるために考え出された技法です。

粒子が細かく、白いので盛った後の漆塗り、金粉での仕上げが、きれいに仕上がる特徴をもっています。



## 宮殿がよく見える弓長押



長押が弓型をしていることから、弓長押と呼ばれ、飯山仏壇独特の「肘木組み」宮殿がよく見えます。



## 金具

銅または真鍮板に本金鍍金をかけ仕上げをし、装飾と耐久性の両方の目的をもって数多くの金具が使われています。



## 「本組み」による組立て式の「木地」

木地には、ヒメコマツ、スギ、ヒノキ、ホウ、カツラなどが使用されます。

厚い木をふんだんに使用するので、飯山仏壇は目方が重いといわれています。

これらの木地を使って「本組み」をします。組立式とって、柱と台輪、柱と板が、雄、雌型によりしっかりと組み合わせられていますので、木材の伸縮や、振動による狂いが起こりにくくなっています。

## 箔押し

仕上げ拭きされた表面に、金箔を置き真綿で拭くと箔に美しい艶がでます。飯山仏壇はこの「艶出し箔押し方法」で金箔を置いているため、いつまでも美しい艶を保つことができます。



## 組立

すべて手造りで造られる飯山仏壇は、分解し、部品を洗って再塗装する「せんたく」ができるのも大きな特徴。せんたくをすることで新しく蘇り、後世へと代々受け継いで使うことができます。

## 飯山仏壇の特徴を受け継ぐ伝統的工芸品



【上】現在の住宅事情に合わせ、コンパクトにした仏壇  
【右】伝統的な漆塗りだけでなく、木目を活かした仏壇



## 信州の木材をふんだんに使って

飯山仏壇では、信州の木材をふんだんに使っています。

木地は地元のカツラ、ホウ、スギ、ケヤキなど。地元産の木地を使うからこそ、ふんだんに使えます。



◆木地工程



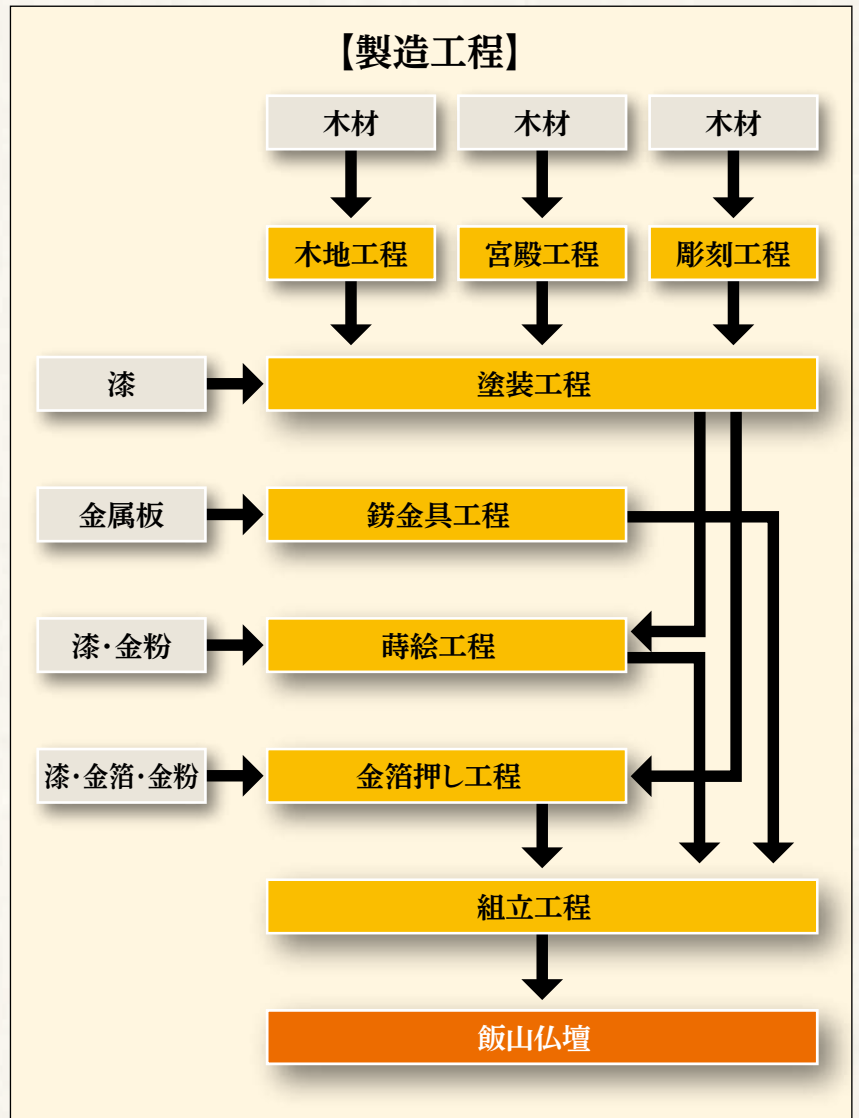
◆宮殿工程



◆彫刻工程



◆かざり 鋳金具工程



**技**

素材の特徴を生かして丁寧に

信州の木地を生かし、ひとつひとつ丁寧に組み立てます。複雑な宮殿は、釘を使わず、手で組み立てられているため、「せんたく」が可能になります。

ひとつひとつの部品に分解できることから、その部品はしっかりと組み合うよう素材の特徴を生かし、丁寧に加工する必要があります。

